

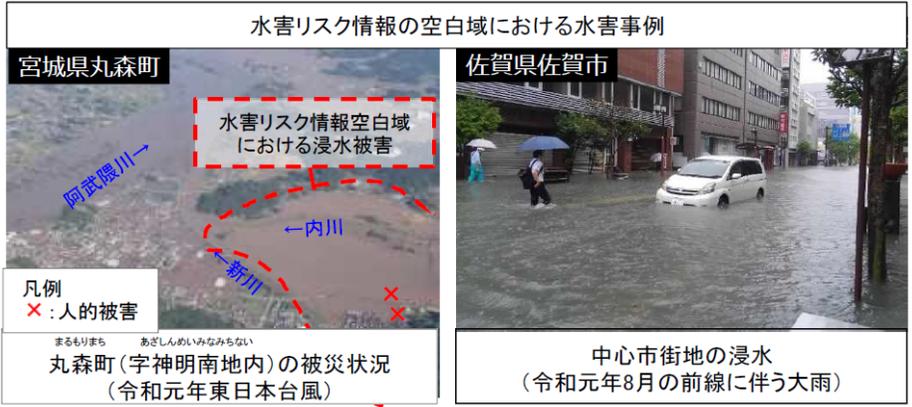
新規事項

水害リスク情報の充実(浸水想定区域図・ハザードマップの空白域の解消) (1/2)

- 近年、中小河川等の水害リスク情報の提供を行っていない水害リスク情報の空白域で多くの浸水被害が発生。
 - 水害リスク情報の空白域を解消するため、水防法を改正し、浸水想定区域図及びハザードマップの作成・公表の対象を全ての一級・二級河川や下水道※に拡大。
 - 洪水浸水想定区域図は令和7年度までに完了を目指し、雨水出水浸水想定区域図は令和7年度までに8割完了を目指す。
- ※全ての一級・二級河川や下水道とは、住宅等の防護対象のある全ての一級・二級河川や浸水対策を目的として整備された下水道のこと。

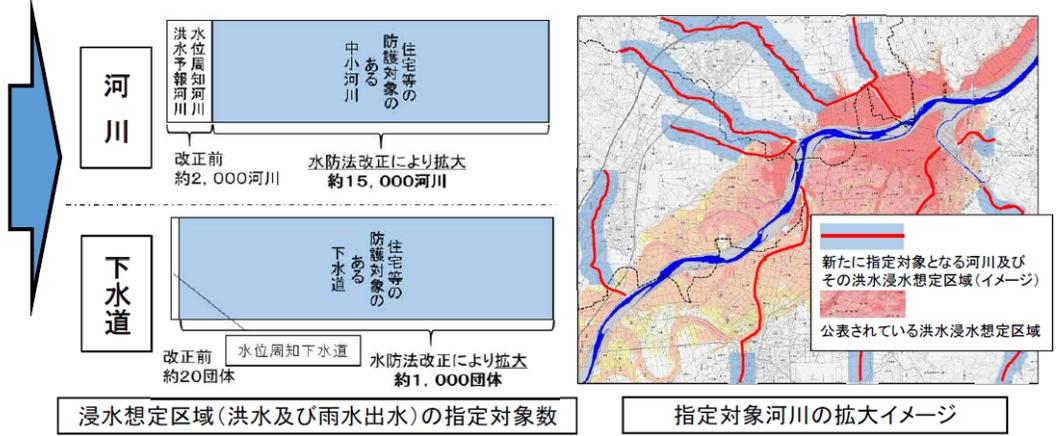
■水害リスク情報の空白域において浸水被害が多発

・令和元年東日本台風では、堤防が決壊した71河川のうち43河川(約6割)、内水氾濫による浸水被害が発生した135市区町村のうち126市区町村(約9割)が水害リスク情報の空白域。



■水防法を改正し、浸水想定区域の指定対象を拡大

・河川(洪水浸水想定区域)では約15,000河川、下水道(雨水出水浸水想定区域)では約1,000団体が新たに指定対象として追加。



	浸水想定区域図	ハザードマップ
河川(洪水)	令和7年度までに完了※	令和8年度までに完了目標
下水道(雨水出水)	令和7年度までに約800団体完了※	浸水想定区域図作成後速やかに作成

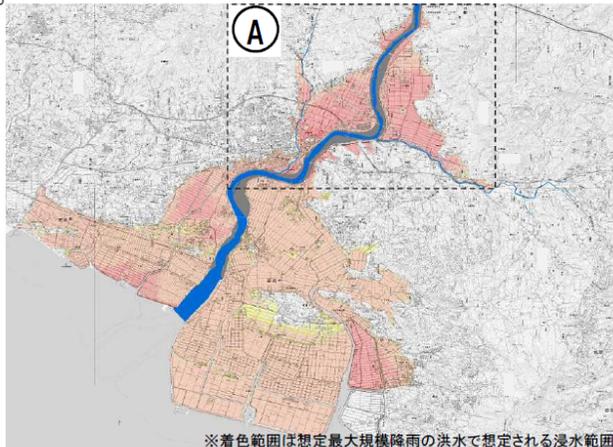
※ 第5次社会資本整備重点計画KPIIIに位置付け

水害リスク情報の充実(水害リスクマップ(浸水頻度図)の整備)

- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進。
- 今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進。

水害リスク情報の充実

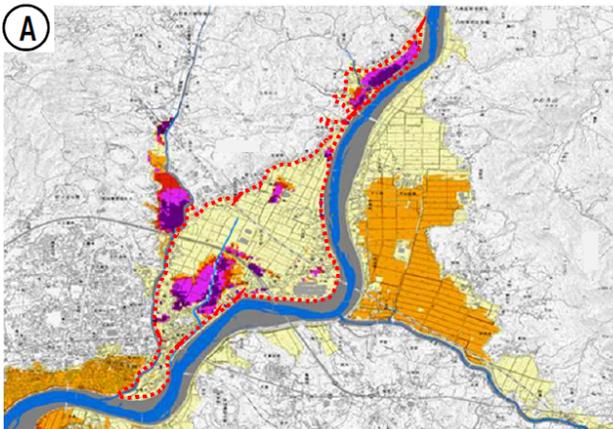
○水害ハザードマップ



○水害リスクマップ^{※1}



※2 上記凡例の()内の数値は確率規模を示していますが、これは例示です。



※1 当資料の水害リスクマップは床上浸水相当(50cm以上)の浸水が発生する範囲を示しています。(暫定版)

水害リスクマップの活用イメージ

現在の水害リスクと今後実施する河川整備の効果を反映した将来の水害リスクを提示し、以下に取り組む

- 住居・企業の立地誘導・立地選択や水害保険への反映等に活用することで、水害リスクを踏まえた土地利用・住まい方の工夫等を促進
- 企業BCPへの反映を促進することで、洪水時の事業資産の損害を最小限にとどめることにより、事業の継続・早期復旧を図る

現在(外水氾濫のみ)

整備後(外水氾濫のみ)



【令和4年度の国土交通省としての取組】

- ・全国109の一級水系において、外水氾濫を対象とした水害リスクマップの作成を完了させるとともに、先行して、特定都市河川や水災害リスクを踏まえた防災まちづくりに取り組む地区において、内水も考慮した水害リスクマップを作成

令和3年度 網走川流域治水協議会（勉強会） 速報版

—水害リスク情報を用いた流域治水の取組について—

令和4年2月4日にWEB会議にて、「令和3年度 網走川流域治水協議会（勉強会）」を開催しました。

■開催日時 令和4年2月4日（金）14:00 ~ 16:30

■実施場所 WEB開催

■参加機関 網走市、大空町、美幌町、津別町、オホーツク総合振興局、網走開発建設部 計 6機関 16名

■勉強会の目的

- ①リスクマップがどのようなもので、どのような情報が得られるのかを理解する
- ②今後の水災害に関するハザード情報（リスクマップの情報）の扱い方を理解する
- ③リスクマップに対する自治体・地域住民の目線で見えた場合の意見を伺う

1. 流域治水及びリスクマップの説明

近年の水災害発生状況や、流域治水の概要と全国での取組事例、リスクマップの必要性のほか、現在公表されている浸水想定区域図とリスクマップの相違点等を説明しました。



事務局からの説明状況

2. リスクマップの確認、意見交換

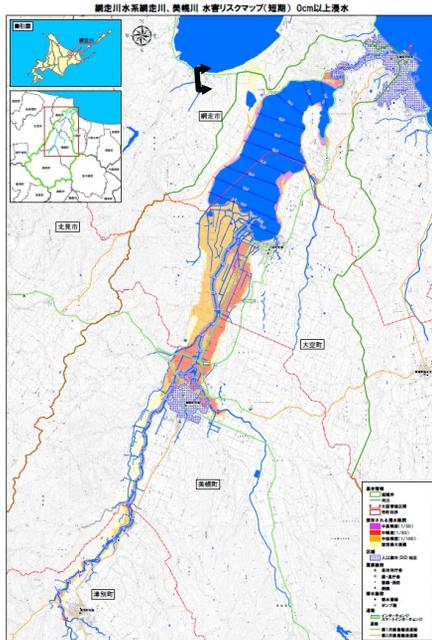
リスクマップの見方について説明を行った後、事務局が設定した地点と、参加者が選んでいただいた任意地点のほか、個人の懸念箇所の浸水リスク情報を確認し意見交換を行いました。

1.1. リスクマップとは③～浸水深度～

○リスクマップに、複数の確率範囲の洪水による浸水箇所を色分けし、型で示すことで、浸水リスクが高い区域を分かりやすくします。

○網走川下流の大雪地区を例にとり、中規模(1/50)の確率範囲において、0cm以上(以下赤字)と50cm以上(以下緑色)の浸水する箇所は大雪地区全域に及びますが、3m以上(以下水色)の浸水する箇所は、古川地区と木根地区の砂浜湖沼に広がっており、浸水リスクが高いことがわかります。

○本邦公称を例にとり、1/30の確率範囲で0cm以上浸水、1/50の確率範囲で50cm以上浸水、想定最大規模で3m以上浸水することがわかります。



網走川リスクマップ

4. リスクマップチェック資料(1地点目)

(1) 確認地点はどこですか？

(2) 確認箇所の浸水はどのような状況ですか？

範囲 (27年度実)	0cm以上浸水	50cm以上浸水	3m以上浸水	備考
中高規模(1/30)				
中規模(1/50)				
中低規模(1/100)				
想定最大規模				
短期 (27年度実)	0cm以上浸水	50cm以上浸水	3m以上浸水	備考
中高規模(1/30)				
中規模(1/50)				
中低規模(1/100)				
想定最大規模				
中長期 (23年度実)	0cm以上浸水	50cm以上浸水	3m以上浸水	備考
中高規模(1/30)				
中規模(1/50)				
中低規模(1/100)				
想定最大規模				

(3) 確認地点付近で気になった点

リスクマップチェックシート



リスクマップの確認状況

自治体職員からの主なご意見

■リスクマップをみることで、自治体で設定している居住誘導区域箇所のリスクがどの程度であるのかを理解することができた。都市計画等の見直しの際には、リスクマップで該当箇所のリスク状況を把握し、設定の見直しをしていきたいと考えている。

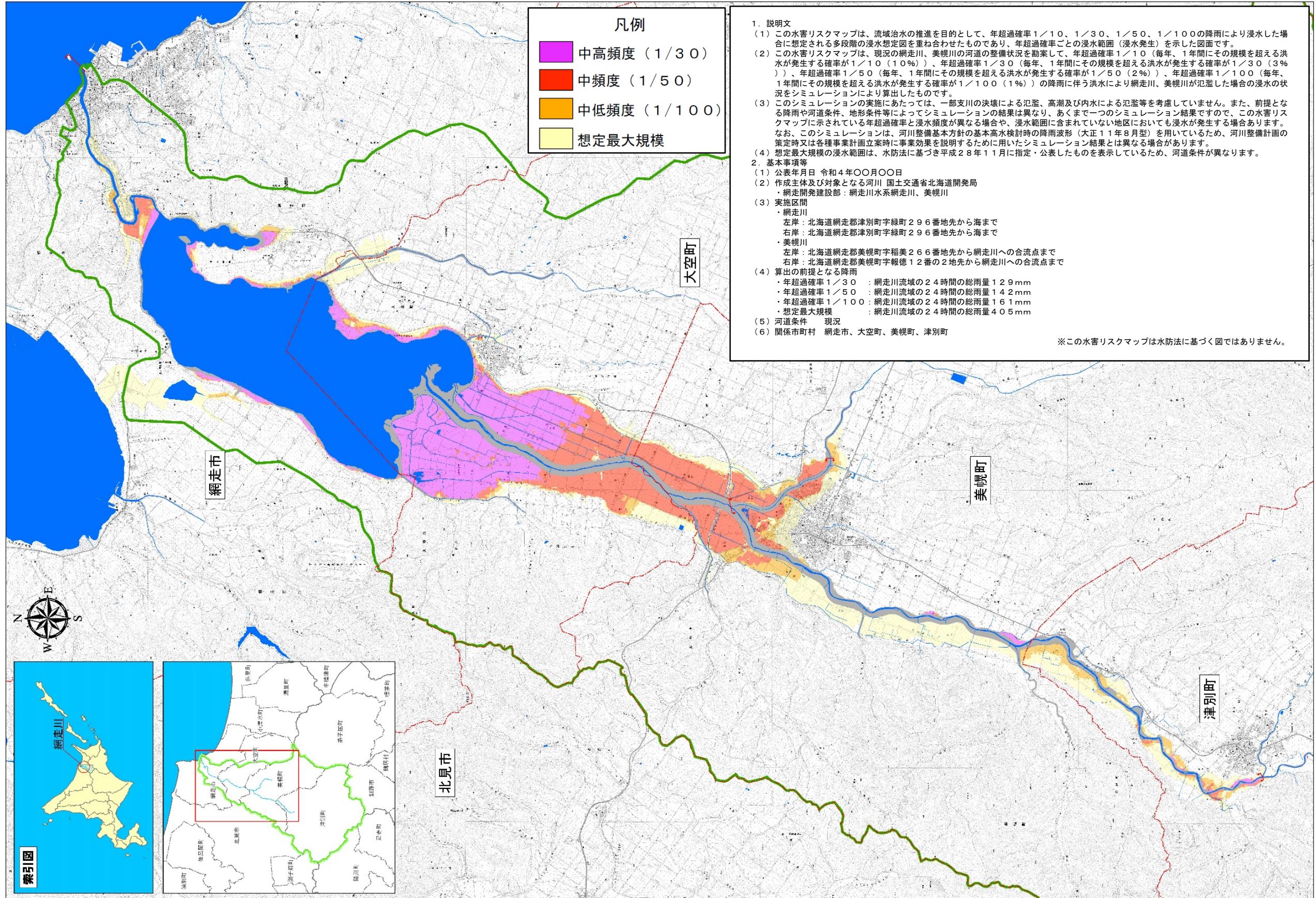
■当初、リスクマップの見方が全然分からなかったが、今回の勉強会に参加し説明を受けたことで、少し理解できるようになった。

■リスクマップの見方については、今後も説明を続けて欲しい。また、リスクマップと現在公表しているハザードマップとの関係や、今後、リスクマップを自治体でどのように活用していけばよいのか等、定期的に情報を提供していただけると有難い。

暫定版

【現況河道】

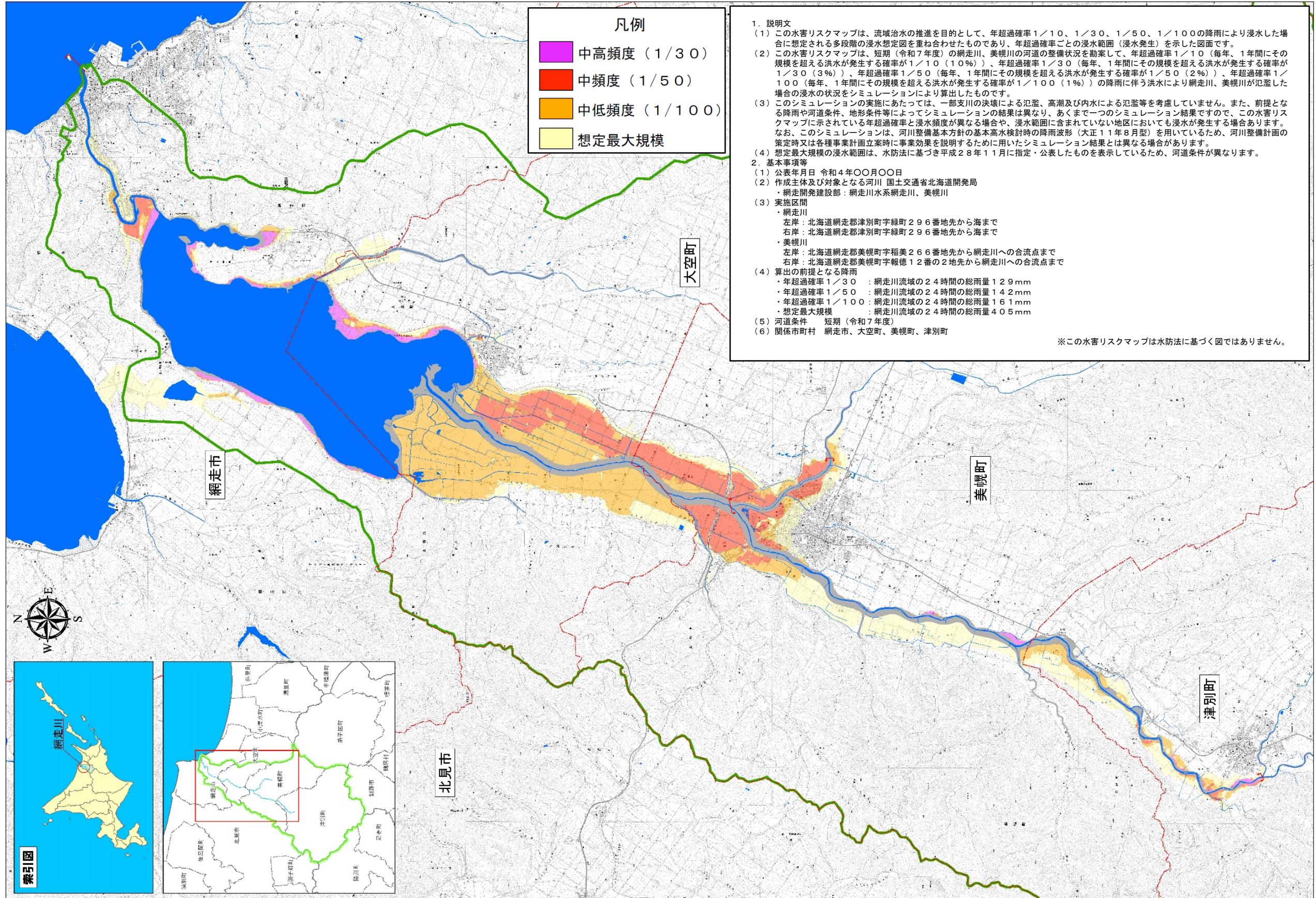
浸水が想定される範囲を表示



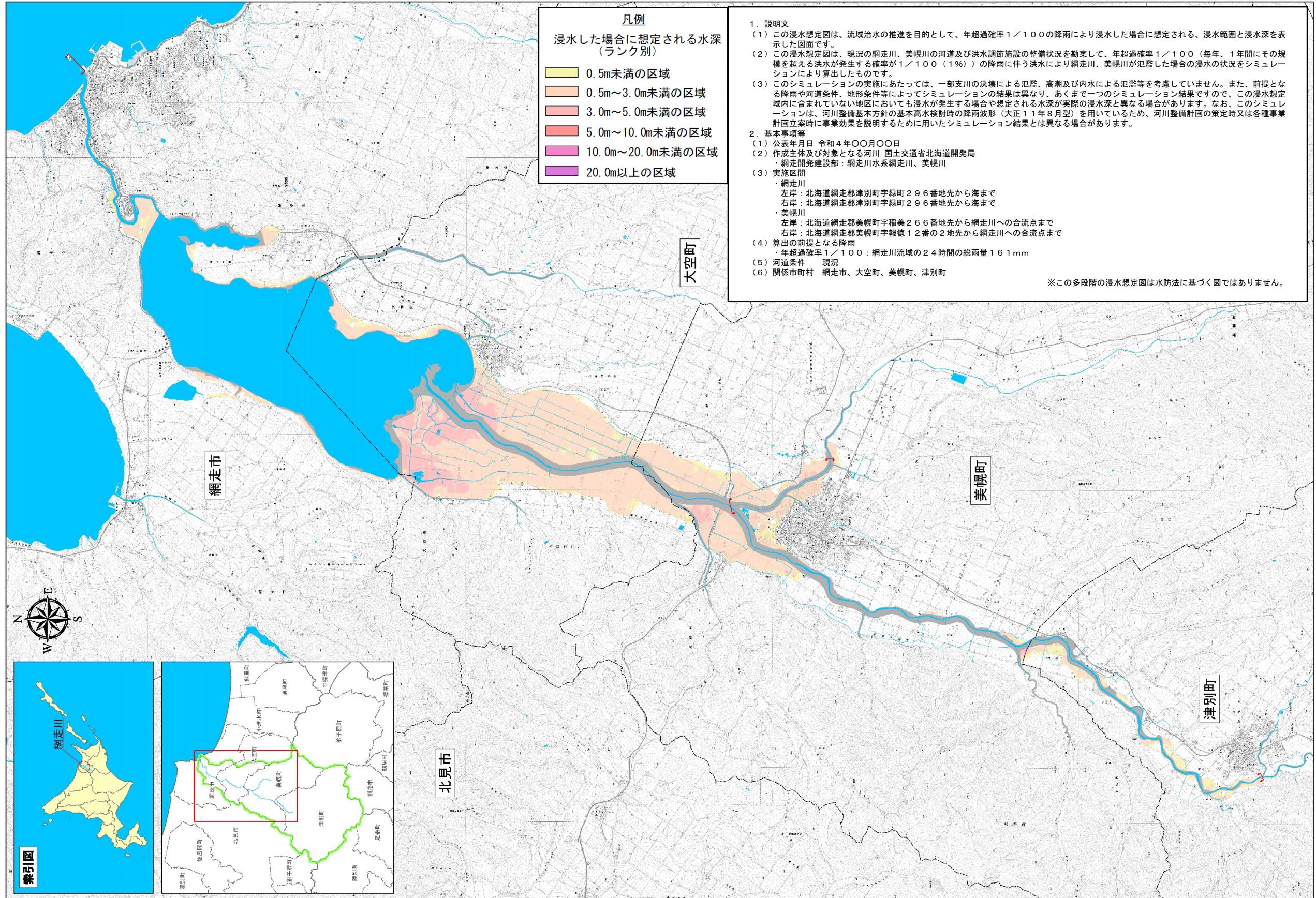
暫定版

【短期河道】

浸水が想定される範囲を表示



【現況河道】



【短期河道】

